

かさ

福音館書店 2歳、3歳かな

松野正子 作 原田治 絵

【あらすじ】

あかいかさ きいろいかさ
あおいかさ
かさがこまになったり
透き通って向こうが見える傘もある
傘を剣にしている子もいる
いろいろなかさがあるけれど
みんなで傘をさして帰ろう



黒い傘はだれの？
大きい傘はおとうさんの？
傘がない子にはかしてあげよう
雨の日もちょっと楽しくなる傘のお話

【めもめも】

表紙をみると一見赤ちゃんの絵本のように。雨の日は外で遊べないし、濡れちゃうし、なんだか憂鬱。でも、傘って色々あって面白いよって気持ちになる絵本。傘を差した嬉しさが伝わってくる。
傘を差し始める年齢に読んであげると楽しそう。
明るい色使いの絵。子どもと傘と雲と雨 背景が複雑ではないので分かりやすい絵本。雨じゃなくても傘をさして帰りたくなるかも。

たんじょうび おめでとう

こぐま社 2歳からいける

わかやまけん 作

【あらすじ】

3さいになったこぐまちゃん
いろいろなことができるようになりました。
ひとりで起きて、はみがきもして顔も洗って
お着替えも。でも、ボタンは難しいね。
お母さんに手伝ってもらう。
朝ごはんはスプーンを使って自分で食べるよ。
少しこぼすけどたべたらちゃんとお片付け。
お絵描きが大好き。砂場遊びも大好き。
しろくまちゃんと仲良く公園へ行って遊びます。
鉄棒だってできるかな…どすん。
できること、大好きなことがいっぱいできたよ。
お母さんのケーキやお父さんからのプレゼント。みんなでお祝い
うれしいおたんじょうび。こぐまちゃん 3さいになりました。



【めもめも】

3歳になるとできることが増えるよ。こんなこともあんなことも…。
子どもの成長を「こぐまちゃん」に置き換えて…。3歳になると、身近
自律で生活の中では結構いろんなことができる。運動能力も上がり、
危険そうだけどチャレンジしたくなる。でも一方で「できそうな
気がする」ということも多く、ちょっと危険だったり、頑張ってもでき
ないことがあることに気づいたり…まさしく3歳だ

いない いない ばあ

童心社 松谷みよ子 あかちゃんの本

松谷みよ子 文 瀬川康男 絵

【あらすじ】

みんなのいないいないばあのお話
いない いない ばあ
にゃお にゃおが ほらほら
いない いない…と次のページで「ばあ」
大きな目で「ばあ」
くまちゃんやちいさなねずみ
こんこんぎつねも いないいない ばあ
こんどはのんちゃんが
いないいない ばあ



【めもめも】

いないいないばあ…生後半年を過ぎると、寝返りができるようになり、周りをよく見たり(見る力が育つ)、ママやパパへの認識が高まったりして人見知りが進む。

「いないいない ばあ」って、隠れると見えないけれど、そこにいるのは理解できる。

「今かな？今かな？」のワクワク感が楽しい。この本は「ばあ」がつぎのページになっているため、一層のわくわく感が味わえそう。

子の様子を見ながら、「ばあ」のタイミングを楽しめる。

ロングセラーで大人気の絵本「ばあ」の時の顔がいい。

いたずらねこ

福音館書店 2歳から

バーナディン・クック文 レミイ・シャーリップ絵 まさきりこ

【あらすじ】

いたずらなほんの小さな猫が
生まれてはじめて
小さなかめをみたお話
庭の池からかめが出てきた。
となりの家の子猫は興味津々。
かめのいるお隣の家の庭に
入っていった。初めてかめをみた。
猫。



ぽんとたたくと頭がひっこみ、ぽんとたたくと足がひっこみ、子猫はめのたまがとびだしそうな顔。

しばらくすると、かめはこうらから足を出し始めた。今度は子猫が後ずさり。かめが一足近づくと、子猫も一足後ずさり。そして、子猫は後ろに池があることに気づかず、とうとう池におっこちた。

あらあら、子猫はどうなった？

【めもめも】

緑と黒と白。ほとんどモノクロの絵本。向こうからかめ、こっちから子猫…絵本の見開きをいっぱいにつかって描かれている。

お互いに近づいて行ったり、迫られたり。動きがあって楽しい絵本
かめの特徴や猫の姿がリアルで、それもまた楽しい。

ゆかいなかえる

福音館書店 3歳から

ジュリエット・ケペシュ 文／絵 いしいももこ 訳

【あらすじ】

たくさんのきょうだいたまごがありました。

でも魚にたくさん食べられて4つのたまごがかえるになりました。

さぎにであったり、かめに狙われたりしたけれど、

4きょうだいはいつも楽しそうで、逃げたり隠れたり、遊んだり…。冬がきて冬眠し、春がきました。



【めもめも】

3歳をすぎて、少しずつ自然の「なぜ」「おもしろさ」を感じられるようになってくる。カエルの1年が楽しく読める絵本。

かえるのたまごを見つけられたり、オタマジャクシを捕まえたり。

絵本を思い出しながら育てられるといいね。

外ってたのしいことがいっぱいあるね。

自然の「何?」「なぜ?」「どうして?」…絵本を通して、実体験を通して楽しみたい。

アンガスとあひる

福音館書店 4歳から

マージョリー・フラック 作／絵 瀬田貞二 訳

【あらすじ】

黒いスコッチテリアの子犬

アンガスは好奇心旺盛

見るもの、嗅ぐもの、

何でも知りたがる。

なかでも一番の関心は、

庭の生垣のむこうから聞こえる

音。その正体が知りたい。

いつもはつながれているアンガスですが、ある日スキを見て外へとび出し、いつも気になっていた音はあひるの鳴き声でした。

声の主、あひるたちを追い回します。ところがあひるたちの強烈な反撃をくらい、家の中に逃げ帰り、3分間は何も知りたくないと思うのでした。



【めもめも】

外で自由になれない分、外への興味がいっぱい。

外に出られたうれしさと、「もうごりごり」な気持ちが楽しく感じられる絵本。

ちょっと長めのおはなしだけれど、わかりやすい内容なので、3歳をすぎれば理解できそう。

新しいことが知りたい子どもたちはアンガスと同じ気持ちなのかな…。

ねずみのおいしやさま

福音館書店 3歳から

なががわまさふみ 作 やまわきゆりこ 絵

【あらすじ】

大雪が降る夜。

ねずみのおいしやさまが寝ていると
リスさんから電話がかかってきました

「ぼうやがかぜをひいて、
ねつをだしていますから、

すぐきてください」 奥さんに心配され、
まはスクーターに乗って出かけてい。しばらく行くと、自分もスクーターも雪だらけ。おまけにスクーターが雪で動かない。困ったおいしやさまはかえるの家でひとやすみ…でも朝まですっかり眠ってしまった。

朝になってりすぼうやのことを思い出し、あわててむかった。
りすぼうやは、前日の大雪で冷やしたらすっかり熱が下がった。安心して家に帰ったねずみのお医者さん。今度は自分が熱を。
そそっかしくて、のんきなねずみのおいしやさまのお話



【めもめも】

やまわきゆりこはぐりとぐらの絵を描いている人。なじみのある絵。
大雪の中、バイクもお医者さんも雪だるまのようになっていところはくすっと笑える。冬眠しているかえるの家で眠ってしまうお医者さん「どうなるの?」とワクワクしながら読みすすめられる。
最後のおいしやさまの熱エピソードもくすっと可笑的い。

ぐるんぱのようちえん

福音館書店 4歳から

西内ミナミ 作 堀内誠一 絵

【あらすじ】

ぐるんぱは、とっても大きなぞう。

でも、ずっとひとりぼっちでさみしく暮らしてきた。

からだもきたなくて、

くさいにおいもして、

「さみしいな」と涙すことも。

見かねたジャングルのぞうたちが、
「ぐるんぱを、はたらきに出そう」と考えた。

みんなに全身を洗ってもらい、

仕事を始めた。ところが、ビスケツトやに靴や、ピアノ工場…いろいろな仕事場で一生懸命働くのだけれど、どれも大きすぎてみんなから「もうけっこう。」

そんなときぐるんぱは、子どもがたくさんいるお母さんに出会い、子どもたちの世話を頼まれた。

さあ、ぐるんぱはそれからどうなったかな??



【めもめも】

堀内誠一のカラフルでかわいい絵。大人も楽しい。

子どもにわかりやすい登場人物で、次々に面白い出来事が。頑張ってるけどうまくいかないところから、最後は今までの失敗がとっても楽しいことになった。誰かの役に立てるってうれしいね。